

第 75 回紫友まち歩き

谷根千まち歩き

今回はアーカイブ第 3 回で立ち寄らなかった「旧安田楠雄邸」建物内&庭園見学をメインに「谷中銀座」自由散策を入れてコンパクトなまち歩きと懇親会です。

日時： 2017 年 4 月 15 日(土)

集合時間：13 時 00 分

集合場所：千代田線「千駄木」道灌山側改札（当日は須藤公園へ移動集合）

参加者：23 名参加、途中から 24 名

案内人：018 星野美和子 長谷川美恵子

懇親会：西日暮里駅 中華 故郷亭

懇親会参加者：22 名（1 名食事のみ）

歩いた歩数：14675 歩、13 階（武馬データによる）

<まち歩き>:

■まち歩き行程

講談社発祥の地、須藤公園→旧安田楠雄邸→宮本百合子旧宅門柱→高村光雲、光太郎旧宅跡→青鞥社発祥の地→鷗外記念館、観潮楼跡→藪下通から千駄木ふれあいの杜→夏目漱石旧宅跡→根津神社裏門から正門→へび道、夜店通り→岡倉天心公園→谷中防災コミュニティーセンター（休憩）→築地塀→ゆうやけだんだんと谷中銀座（自由散策）→修性寺（布袋）・青雲寺（恵比寿）→故郷亭で懇親会→解散

<スタート>

① 講談社発祥の地、須藤公園：

改札を出た地上通路は狭いので、講談社発祥の地を見て、須藤公園で集合となる。旧安田楠雄邸見学費用を団体で 100 円安い 400 円を集金。

須藤公園は、江戸時代、加賀前田藩の支藩大聖寺藩主松平備後守の屋敷。水道を利用した滝があり、下の池には鯉に加え、大きな亀がゆっくりと泳いでいた。



シャガの咲く崖の小道を登って、旧安田楠雄邸に向かう。



② 旧安田楠雄邸：

2 班に分かれ、ボランティアのガイドに従い、庭と建物内部を見学する。満開を少し過ぎたしだれ桜を庭からと 2 階の部屋から眺める。桜も育って現在は 2 階からが一番の眺めだ。



硝子障子を通して、どの部屋からも違った景色の庭を眺めることができるなど、昔の匠の魂が込められている。住む人も最新の生活を目指しながらも、伝統をうまく生かした近代和風建築になっている。



相続対策で、ナショナルトラストに寄贈。(解説) 旧安田楠雄邸は大正時代に豊島園創始者藤田好三郎氏によって建てられ、後に旧安田財閥安田善次郎氏の娘婿の善四郎氏が買い取り関東大震災、太平洋戦争などの被災を逃がれ、最後の当主楠雄氏はクーラーも入れず、昔のままの状態ですし、調度品も当時から昭和初期のものが残っています。また庭には枝垂れ桜があり、二階から間近に見るもよし、普段は非公開の庭から見上げるもよし、六義園の夜桜とはまた違った楽しみ方ができるかと思えます。

③ 宮本百合子旧宅門柱：

宮本百合子(旧姓・中条ユリ(1899～1951))旧宅のあずき色の門柱は実家、中条家入り口の名残である。駒本小学校、誠之小学校、お茶の水女学校から、日本女子大(英文予科)に進んだなどが案内板に書かれている。



④ 高村光雲、光太郎旧宅跡：

左隣は「旧安田楠雄邸」、右隣は「宮本百合子」旧居跡。高村光雲・光太郎の自宅があり、育ったところが千駄木五丁目 155 番地。現在それが、「155 番館」というマンションが建つ土地のようで、案内があった。

(参考)ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典の解説によると、千駄木の地名の由来は、かつての森林地で、1日1000駄(駄は重量の単位)のまきを出したことによる。他の説明は「1駄は馬1頭に背負わせられる荷物の量で、千駄には大量という意味もある。」



⑤ 青鞥社発祥の地：

通りに面したマンションそばに青鞥社発祥の地の説明版があり、読む。



(解説)：平塚らいてう(1886～1971)の首唱で、木内錠子(ていこ)・物集(もずめ)和子・保持研子(やすもちよこ)・中野初子ら二十代の女性5人が発起人となり、1911(明治44)年6月1日に結成された。事務所はここ旧駒込林町9番地の物集和子宅におかれ、その裏門に「青鞥社」と墨で書かれた白木の表札が掲げられた。月刊「青鞥」の創刊号は明治44年

9月に発刊された。雷鳥の発刊の辞「元始、女性は実に太陽であった」は有名で、女性たちの指針となった。表紙絵は後に高村光太郎と結婚した長沼ちる（高村智恵子）の作である。

青鞥社は初め詩歌が中心の女流文学集団であったが、後に伊藤野枝が中心になると、婦人解放運動に発展していった。事務所はその後4ヶ所移り、「青鞥」は1916(大正5)年2月で廃刊となった。

⑥ 鷗外記念館、観潮楼跡：

鷗外記念館には入館せず、裏口の庭で案内人から説明を聞く。



観潮楼から昔は品川の海が見えたという。森鷗外が大正11年(1922)に没するまで、『青年』『雁』『高瀬舟』など数々の名作を著した住居跡。

⑦ 藪下通から千駄木ふれあいの杜：

武蔵野台地の東端に位置する、本郷台地と根津谷の間の斜面に残る崖線緑地。江戸城を築いた室町中期の武将・太田道灌ゆかりの屋敷の森の為、通称「屋敷森」と呼ばれている。



⑧ 夏目漱石旧宅跡：

塀の上の猫がここの名物。



(解説)：ここには、イギリスから帰国後の明治36年から3年間住んだ。この間、東京大学英文科・第一高等学校の講師として活躍する一方、処女作『我輩は猫である』を執筆し、この旧居は作品の舞台となった。『倫敦塔』『坊ちゃん』『草枕』等を次々に発表したところでもある。

⑨ 根津神社裏門から正門：

つつじ祭りの期間のためか、露店がたくさん出ている。



残念ながら、つつじはまだ咲いていなかった。観園料金は200円です。



千本鳥居参道や乙女稲荷を楽しみ、根津神社境内を散策。



昔は国宝で、今は重要文化財とは??、と議論もあり。



⑩ へび道、夜店通り：

へび道がくねくねしているのは元が藍染川だからである。藍染川は上野の不忍池に注いでいた川。



指人形笑吉は今回スキップする。

⑪ 岡倉天心公園：

岡倉天心の旧宅跡。昭和42年(1967)に開園。約700㎡の小さな公園。六角堂と歌碑が立ち、六角堂の中には天心坐像が据えられている。

⑫ 築地塀：

延長約38m 続く、趣のある土塀観音寺「築地塀」は、谷中の風情を伝えるシンボルとして有名。「まちかど賞」受賞。



⑬ ゆうやけだんだん と 谷中銀座（自由散策）：

懐かしいベーゴマ風景を見ることができた。思っていたよりも小さな坂だ。夕焼けまではまだまだで、しばし谷中ぎんざで、買い食いと買い飲みをする。



コロッケ、メンチなどが売れ筋。



⑭ 修性寺（布袋）・青雲寺（恵比寿）：

布袋さんや恵比寿さんの絵が塀に書かれている。



⑮ 故郷亭で懇親会：

西日暮里駅そばにある同窓生平野千里作の童子像「飛翔」を見学。



おなかが空き、喉も乾いていたので、一斉に注文をし始めた。お店は混乱したようで、頼んだものもなかなか出ないし、忘れられてしまったものもあった。

懇親会を 2 時間ちょっと楽しんだ。元気な年寄りには良く飲み、良く食べます。お店もびっくりでしょう。



⑯ 解 散

お疲れさまでした。

身体が言うことを聞かなくなっている人も、少しずつできる範囲で頑張っ一緒にまち歩きを楽しみましょう。